

◆◆◆ アメダスデータ等統合処理システムの運用開始について

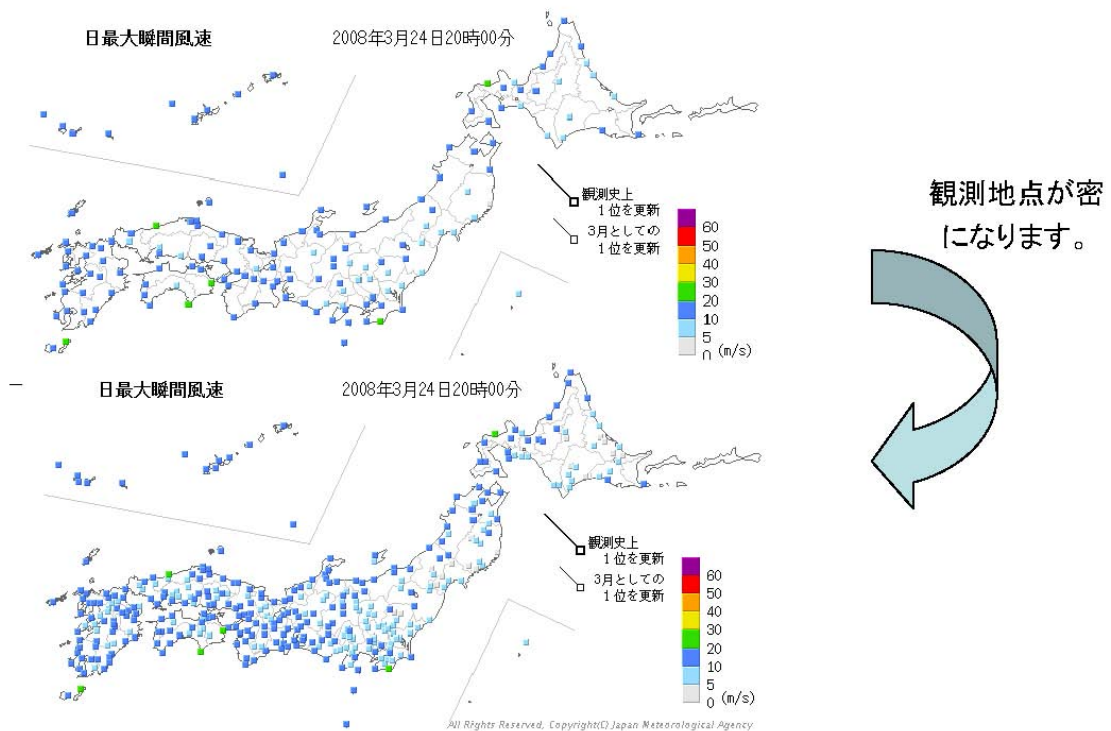
3月7日（金）、気象庁では、3月25日（火）から、アメダスデータ等統合処理システム（新アメダス情報システム）の運用を開始すると発表しました。

新しいアメダス処理システムは、気象台をはじめとする気象官署等とアメダス観測所の気象観測データを一括して処理するもので、運用開始の時点では150ヶ所の気象官署等と約230ヶ所のアメダス観測所が接続されており、残りのアメダス観測所についても、来年度から順次、接続される予定です。

新アメダス処理システムの運用開始にあわせ、これら230ヶ所アメダス観測所では新たに最大瞬間風速の観測が開始されます。これにより、最大瞬間風速の観測所数は約150ヶ所から約380ヶ所に増加されることになります（下図参照）。また、気温についてはこれまでの10分毎に行われていた観測に代わり、気象官署と同じく10秒毎の観測値からそのデータが得られるようになります。

これらに伴い、気象庁から提供されるアメダスの観測データは、これまでのもの（降水量、気温、日照時間、風向・風速、寒冷地は積雪も）に加え、統計処理された観測データ（当該時刻までの過去24時間降水量や当日の最高・最低気温、最大瞬間風速等）が10分毎に配信されるようになります。

図 アメダス等による日最大瞬間風速データ取得点の増加状況



気象庁ホームページ (<http://www.jma.go.jp>) 上の報道発表資料
(<http://www.jma.go.jp/jma/press/0803/07b/amedas080306.html>) より